

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報)／曾根 直人

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

1. 授業内容については、学生自身が興味を持って授業に取り組めるような題材を利用することで、積極的に授業に参加できるようにする。  
2. 授業方法については、LMSのmoodleなどを活用し、資料の公開やオンラインテストによる理解度の確認などを活用する。  
3. 成績評価についてもオンラインでの小テストなどで理解を確認しつつ、成績評価を行う。最終の評価は授業に合わせてテストやレポート、提出物で適宜行う。

## 2. 点検・評価

実践情報教育IIではホームページ作成やビデオ編集を扱い、学生が興味関心を持てるような課題に取り組んだ。意欲的に授業へ参加させることができた。また全ての授業でLMSを利用した資料配布を行なった。オンラインテストも実施し、学生の理解を把握するのに役立ったが実施回数がまだ少ない。オンラインテストによる理解の把握およびその結果を授業に反映することは効果が高いと考えており、今後より回数を増やせるようにしたい。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

・コースおよびセンターの兼務のため、業務に膨大な時間を取られるが、卒論・修論の指導を行う。  
・ゼミ学生は学外での研究発表を行えるよう、指導を行う。

## 2. 点検・評価

センターの業務ではかなりの負担が高いが、監視作業などはプログラムによる自動化を行ない省力化を図った。また昨年はM2,L1,B4が研究会で発表を行なった。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

・高度情報教育研究センターコンピュータシステムおよびネットワークの運営により得られた成果について発表を行う。

## 2. 点検・評価

情報基盤センターでのシステム運営に関連して得られた成果をまとめ、情報教育ジャーナルにて

- ・ネットワークカメラを用いた学内消費電力可視化の試み
- ・情報基盤センターにおける時系列データ活用

を発表した。またICSS研究会にて研究成果の発表を行なった。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ・学内のICT活用について協力し、ICTの活用による作業の効率化を目指す。
- ・Ek4関連のシステム運用に協力する。
- ・エコアクションプランに協力し、サーバなどの集約、省電力化を目指す。

## 2. 点検・評価

ホームページの仕組みを変更し、新サーバーを利用するように移行作業を進行している。利用者の協力を得ながら作業を進めている。

教育研究プロジェクトの支援により、高島キャンパスにおける消費電力の可視化およびパソコンを快適かつ低消費電力で利用するためのデータ収集を行うことができた。これらは産業技術教育学会四国支部大会や日本産業技術教育学会情報分科会研究発表会で発表を行った。

エコアクションでは現地審査の際にキャンパス消費電力可視化のシステムをデモした。

Ek4のシステムに関しては構築が遅れており、早急にシステムの整備を進めたい。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ・附属学校のネットワークが正常に稼働するよう連携を深める。
- ・公開講座などで講師を担当する。

### 2. 点検・評価

附属学校のルータは自動監視システムによる監視対象に加えた。希望があれば他のシステムも監視対象とできるが附属学校のシステム担当者との協議が必要でありまだ実施できていない。  
公開講座「もっとパソコンを活用しよう」を開催した。受講者7名であったがTAの補助もあり受講生には好評であった。  
附属中学校において1月12日にLFTを担当した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

高島キャンパスの消費電力可視化

<http://www.naruto-u.ac.jp/~powermonitor/powerusage.png>

エコアクションなどでこの情報を活用していくためには、システムだけではなく節電サポーターなど省エネに関心のある人を見つけ、その人たちが興味を持ってもらえるような情報提供が必要になる。

システム以外のとりくみを今後すすめるひとつがある。